

徳山下松港 <Port of Tokuyamakudamatsu>

■港格／国際拠点港湾
■港湾管理者／山口県
■指定年月日／昭和40年4月



徳山下松港は昭和40年4月に特定重要港湾の指定を受け、主として「周南工業整備特別地域」の中核をなす周南地域(周南市、下松市、光市)の石油コンビナート、化学工業、機械製造業等の活発な企業活動を支える工業流通港として、また、徳山地区においては、大分県国東半島及び周南地域周辺の離島との定期フェリー航路等の拠点港として地域の発展に寄与してきました。

平成15年4月には総合静脈物流拠点港(リサイクルポート)に指定され、海上静脈物流とリサイクル産業の拠点形成に向けた取り組みを進めています。また、平成20年11月には徳山地区の晴海埠頭が全国で初めて民間企業への長期貸し出しを行う臨海部産業エリア形成促進港の指定を受けました。平成23年5月には、宇部港とともに国際バルク戦略港湾に選定され、平成28年度に徳山下松港国際物流ターミナル整備事業に着手することになりました。さらに、平成29年9月には、バルク港湾においては全国初となる官民による「やまぐち港湾運営株式会社」が設立、平成30年2月には石炭の輸入拠点としての機能や効率的な運営体制が整ったことから、西日本で初めて特定貨物輸入拠点港湾(石炭)の指定を受けました。

西日本エリアへのエネルギー供給拠点としての役割を担うなか、CNP(カーボンニュートラルポート)形成に向け、令和2年度に徳山下松港CNP検討会を立ち上げ、将来的に需要拡大が予想される水素、アンモニア等の次世代エネルギーやバイオマスの活用に向けた検討を進めてきました。令和6年3月には、港湾管理者である山口県において、徳山下松港港湾脱炭素化推進計画が策定されました。背後企業の国際競争力の維持・強化とカーボンニュートラルの実現の両立を支えるとともに、西日本エリアの次世代エネルギー供給拠点港として、背後圏と一体となった徳山下松港の更なる発展を目指していきます。

やまぐち「港」物語 - 徳山下松港 -

明治中期、徳山は不況の真っ只中を迎えていました。そんな中注目を浴びたのが海軍練炭製造所の設置問題。全町民をあげての積極的な誘致活動と、徳山が佐世保・呉の港を結ぶ位置にあり製品や原料の輸送に有利な土地柄であることが認められ、設置が決定されました。大正10年には海軍練炭製造所は重油の精製に転換し、海軍燃料廠と改称しました。また徳山港の機能性に着目した様々な企業が續々と工場を創設しました。かくして徳山は工業都市として生まれ変わり、街にも再び活気が訪れました。

特別な産物もなかった徳山で工業が発達したのも、運搬が便利な瀬戸内の中心であり、大型船の入港が可能である天然の良港を持っていたことが最大の要因でした。



←山陽波止場
／もともと内海に面し、漁港として栄えた徳山は、藩主の参勤交代のときは乗船の発着場としても使用され、古い時代から港としての機能をもって発展してきました。写真は昭和10年の風景。

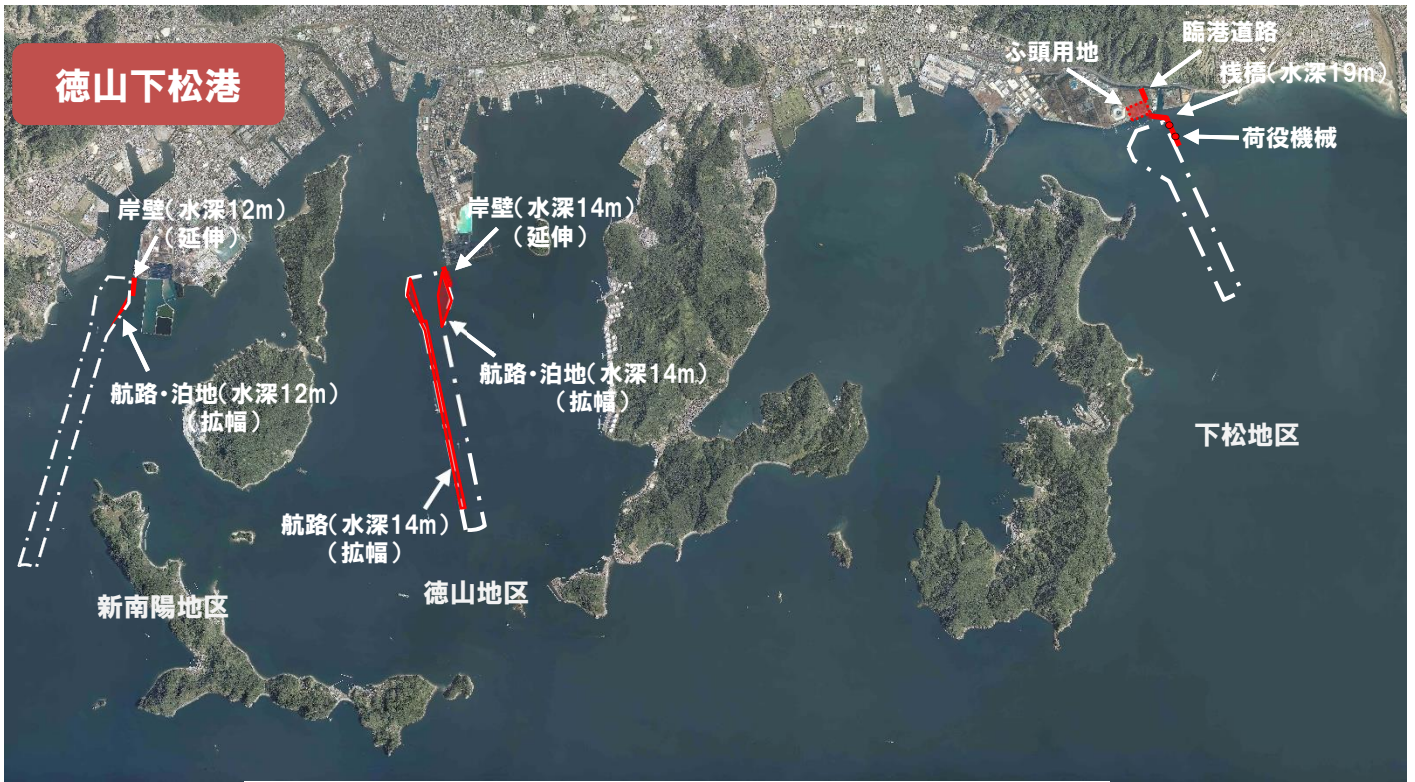


←整備の進む海軍練炭製造所／明治37年に開設され、その後石油の需要が増大したため、さらに施設の拡張整備が行われました。

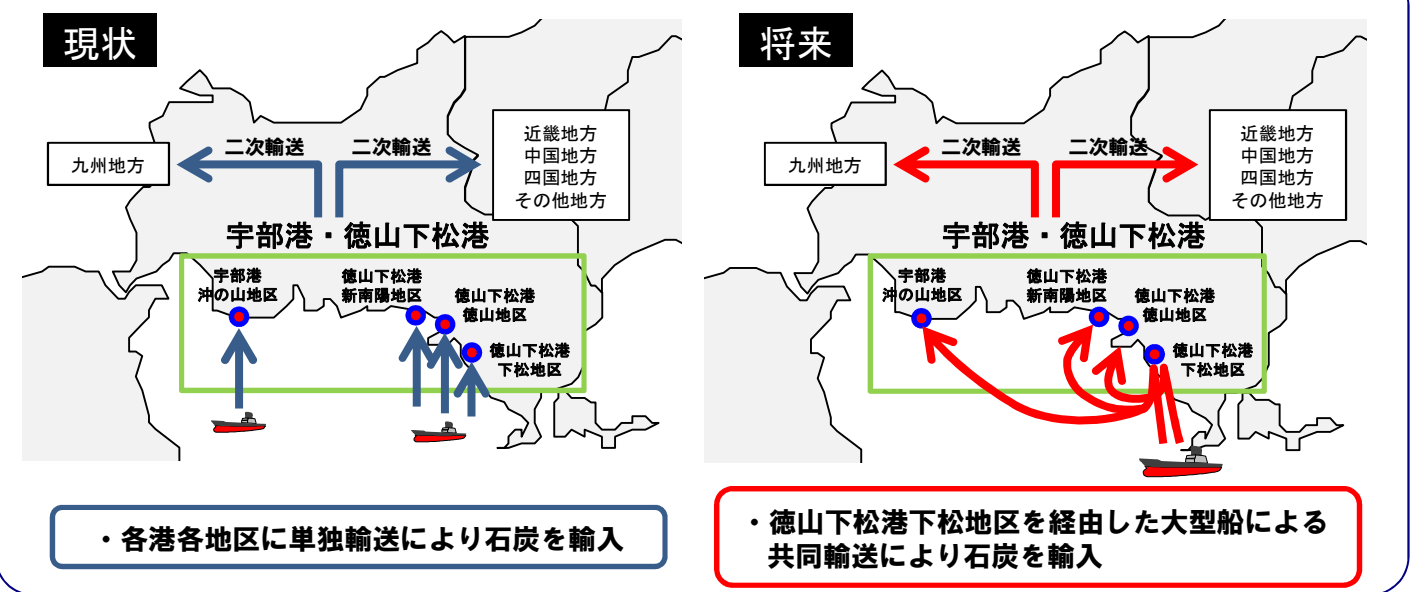
写真／「ふるさとの思い出 写真集 明治・大正・昭和 徳山」より転載

徳山下松港整備事業の紹介

— 徳山下松港国際物流ターミナル整備事業 —



徳山下松港・宇部港における企業間連携の取り組み



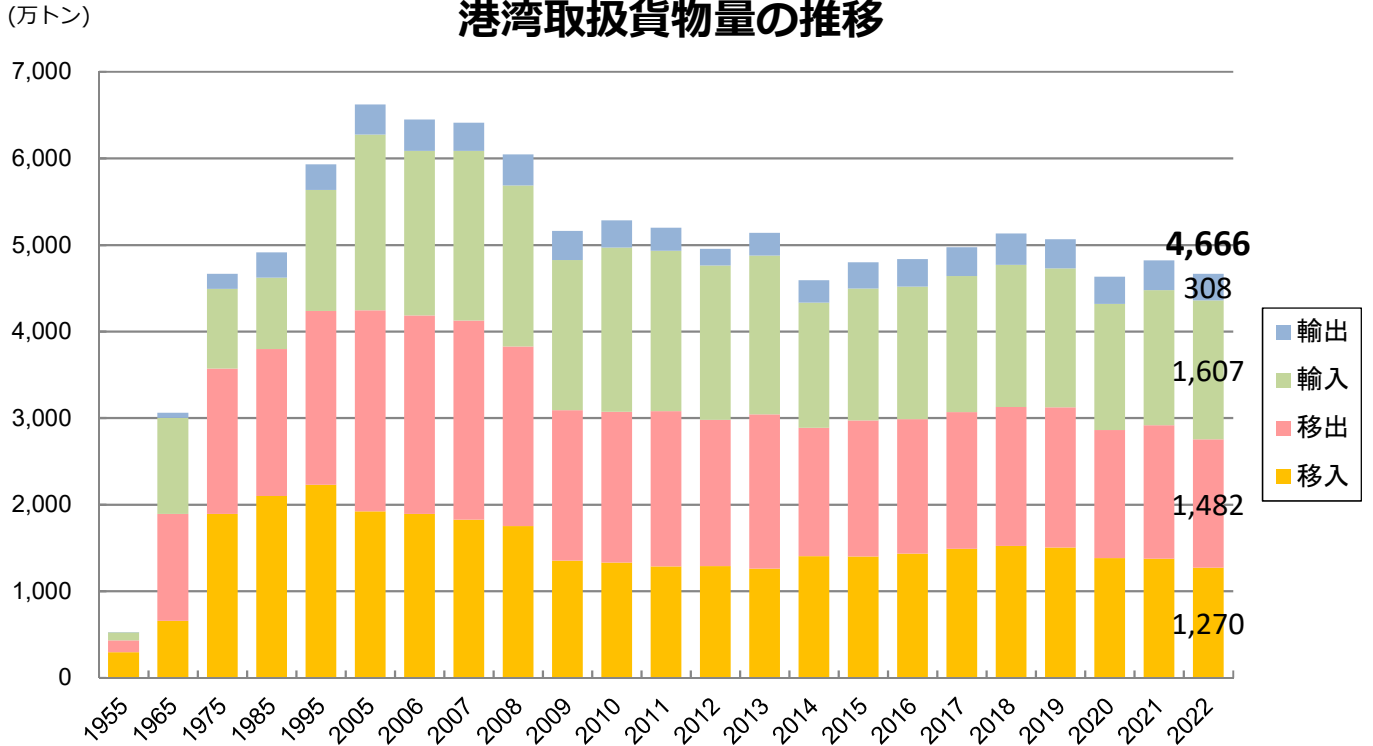
徳山下松港及び宇部港には、日本を代表する基礎素材型産業が集積しており、そのエネルギーの殆どは石炭による自家発電で賄われています。また、両港にはコールセンター(輸入石炭の中継備蓄基地)もあり、西日本一円に立地する火力発電所や各種工場への石炭供給拠点として重要な役割を担っています。

現在、企業間連携による大型船を活用した共同輸送を促進することにより、国全体として安定的かつ効率的な資源・エネルギー等の海上輸送網の形成を図ることとしており、徳山下松港及び宇部港は、平成23年5月に、石炭における国際バルク戦略港湾に選定されました。

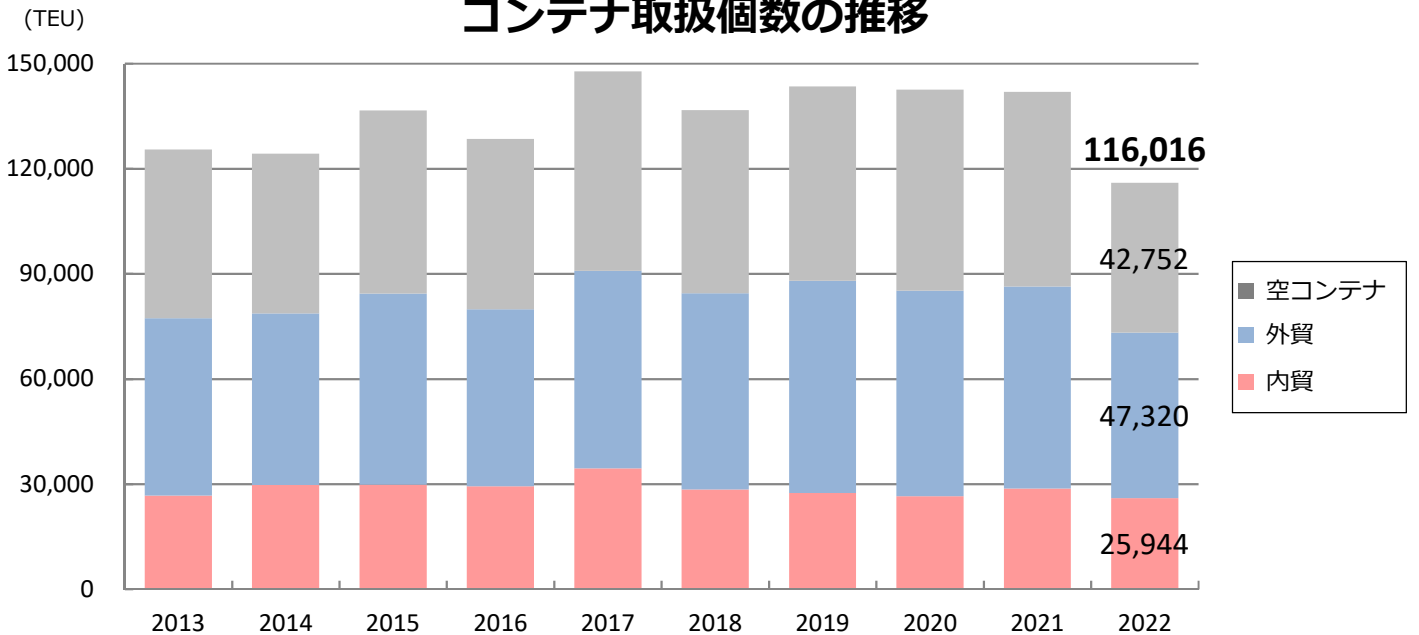
また、船舶の大型化に対応した港湾施設整備として、徳山下松港国際物流ターミナル整備事業に平成28年度から着手しました。

数字でみるみなと - 徳山下松港 -

港湾取扱貨物量の推移



コンテナ取扱個数の推移



外内出入別の主要品目取扱貨物量(2022年)

